

山梨



母乳に含まれる成分が免疫に与える効用について語る中尾教授（19日、山梨大甲府東キャンパスで）

山梨大 読売講座

山梨大学と読売新聞甲府支局が共催する連続市民講座「あすの生命と健康を見つめる」の第9回講義が19日、甲府市武田の同大甲府

「母乳に免疫調整成分」

医学部・中尾教授 アレルギー性疾患解説

東キャンパスで行われた。医学部の中尾篤人教授（免疫学）が「食と免疫と食物が免疫系の発達や機能に与える影響」と題して、会場いっぱい約250人の聴講生を前に講演した。中尾教授は研修医時代にぜんそくを患ったことから、対症療法に頼る食物アレルギーなどアレルギー性疾患の対抗策を研究している。免疫は細胞の働きが基

本。中尾教授は「細胞を作るたんぱく質など栄養素を満遍なく摂取すべき」とし、アミノ酸をバランス良く含む豚肉を勧めた一方、抗生物質のベータカロテンを摂取し続けて肺がんリスクが上がった研究結果から、「植物油由来のサプリメントの過剰摂取は危険」と指摘した。アレルギー性疾患については、母乳で育てた子どもはぜんそくなどの発症率が低いとのデータに触れ、「母乳には免疫を調整する成分があり、現在自分も研究を進めている」と話した。欧州では、花粉エキスを口に入れてアレルギー反応を出にくくするなどの治療

が行われていることも紹介した。

